

# 朝の海

今瀬剛一

碑は「雲よ雲よ」と永久に秋の海

感動か痴呆か月見草咲けり

美しく葉並べて良夜なり

無住寺でありけり薊返り咲き

呆と顔あり秋の蚊を打ち損じ

きちきちと空に見えなくなりしかな

蓑虫のまつすぐに垂れ朝の海

面影のいつも直向き鉦叩

蛇穴に入る一人づつ一人づつ

秋の蚊やふはふはとゆく旅心

つくしこひしと鳴きながら死すと言ふ

老いてゆく速さの釣瓶落しなり

菊枕ふはりと顔までも沈み

秋の海引きずつてゆくティンパニー

ねんねこのねんねんころり遠き母